

最新

Fintech⁺

(23)

三根 公博

いつか丸くなると信じたい ゴレンジャーは海、時を超える

世界最大のブロックチェーンカンファレンスのConsensusが、一昨年、昨年とアメリカのオースティンで開催されていたのが、今年はカナダのトロントで開催されたことを機に、先週現地を訪ねた。

トロントは、とてもきれいな街で、夕方5時になるとほとんどの人が帰宅し、午後8時半の日没までにハッピーアワーのビールを楽しんでいる。それでいて、1人当たりGDPは日本の2倍以上。東京都に限って比べてもほとんど変わらない。こんなにゆったりと働いているカナダと、あくせく働く日本の1人当たりGDPにここまで違いがあると、改めて日本人の生き方を考えさせられるところが多い。

さて、カナダではアメリカほど日本の影響を感じなかったが、日本のアニメ・マンガは受け入れられており、あちこちにショップがある。日本の特撮・ヒーローものも人気コンテンツだ。

実は、今年は戦隊シリーズ第1号となる「秘密戦隊ゴレンジャー」の放送開始から50年目。ゴレンジャーはアメリカへと渡り、「パワーレンジャー」として親しまれ、1990年代以降、日本発の特撮ものが海外で受容される基盤を築いた。マーベルのヒーローもの実写版の興隆は、ゴレンジャーに触発されて実現した、と言えるだろう。

アメリカでもスーパーヒーローの「決め」ポーズは日本と似通ってきている。いわば歌舞伎の「見栄」がアメリカのスーパーヒーローにも見られる。

この「似て非なるもの」が成立する背景には、生物学でいう「収斂進化」の考えがある。サメとイルカは、魚類と哺乳類という全く異なる進化のルートをたどりながら、どちらも高速遊泳に適した流線型の体とヒレを備えている。これは海という共通の環境下、全く異なる種が独立して、極めて類似した形態に進化した好例である。

進化の収斂は、生物に限らない。人間の社会や文化の中にも

地理的・文化的に隔絶していても、「人類」が直面した共通の課題に対して似たような進化をたどることを、「文化的収斂」と呼び、現代のテクノロジーや経済にも色濃く現れている。

スマートフォンの操作体系や音楽のコード進行、ビジネススーツの標準化といった事象は、すべて異なる文化圏が独立に「直感的・快適・信頼できる」という価値観に向かって収斂してきた結果である。

文化的収斂の象徴として、自動車のハンドルも挙げられる。黎明期には三角形やレバー式など多様な形状が試みられたが、最終的には「丸い輪を回す」という方式に世界中の自動車が落ち着いてきた。「丸」が人間の腕を通して力を均等に伝えやすく、直感的で安全に操作できるからだ。

この収斂の法則に従い、今後は産業や社会も合理性と共感性を両立する方向に発展・進化していくと考えられる。尖った個性も悪くないが、長期的には、自動車のハンドルのように、誰にとっても心地よく、受容しやすい形が支持されていくだろう。

ゴレンジャー、その米国バージョンであるパワーレンジャーも、リーダーであるセンターキャラのイメージ色は赤である。アメリカでは、リーダーの象徴色は赤、青のどちらかだが、現在は「赤のリーダー」の動きに世界が振り回されている。ハンドルは長い時間をかけて最終的に丸型に落ち着いた。赤にせよ、青にせよ、いつかは丸くなると信じたい。



特撮戦隊ものは日本発祥。米国でもリーダー色はレッド(赤)だ(筆者がChatGPT制作)

見ることができる。

たとえば言語。英語、中国語、タイ語など、系統が異なるにもかかわらず、主語→動詞→目的語(SVO型)の語順が多く、言語で自然に採用されている。宗教や農耕、家族制度などにおいても、全く交流のない社会が類似した構造を持つ例は数多い。